



製薬協

報道関係者 各位

2025年2月25日

日本製薬工業協会

製薬協「第18回くすりと製薬産業に関する生活者意識調査」について

このたび、日本製薬工業協会（以下、製薬協）は、本年度実施した「第18回くすりと製薬産業に関する生活者意識調査（以下、本調査）」の調査結果報告書を、製薬協ウェブサイト上に公開いたしましたので、お知らせします。

第18回くすりと製薬産業に関する生活者意識調査

https://www.jpma.or.jp/news_room/issue/survey/index.html

本調査は、医療用医薬品や製薬産業に対する生活者の理解や認識の実態を把握し、製薬協の広報活動を実施する上での基礎資料とすることを目的としています。1996年に開始し、2014年からは毎年調査を継続して、今回が18回目となります。

今回の調査結果によると、製薬産業への信頼度は84%であり、国民生活に欠かせない産業（新設）としても89%の肯定的回答をいただきました。調査項目によっては、年代別、健康状態別、受診経験別などの各層による考えや関心の違いも見られます。業界からの情報発信もこの違いを大切にし、ステークホルダーズの皆さんからの期待に応え、多様なニーズ・関心を踏まえ、エンゲージメントを意識した広報活動を指向してまいります。

以上

本件に関する問い合わせ先

日本製薬工業協会 広報部 TEL 03-3241-0374

<別紙>

2025 年 2 月 25 日

「第 18 回くすりと製薬産業に関する生活者意識調査」概要

日本製薬工業協会
広報委員会
広報部

1. 調査目的

医療用医薬品や製薬産業（会社）に対する患者・生活者の理解や認識の実態を把握し、医薬品や製薬産業に対する理解・信頼感を高めるための広報活動の基礎資料とする。

2. 調査概要

- (1) 調査地域 首都圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）
近畿圏（大阪府、京都府、兵庫県、奈良県）
- (2) 対象 満 20 歳以上の男女（ただし、医療関係者・製薬企業従事者等は除く）
- (3) 標本数 2,000 人
- (4) 調査方法 インターネット調査
- (5) 調査期間 2024 年（令和 6 年）9 月
- (6) 調査機関 GMO リサーチ株式会社

3. 調査結果の要約 （※カッコ内は昨年度との比較）

第 1 章 くすりについて（情報取得、理解、使用実態）

(1) 健康状態と受診経験

- ・「健康層」 69.2%（3.8 ポイント減）
【「非常に健康」 8.5% + 「まあ健康（普通）」 60.7%】
- ・「受診経験層」 70.6%（1.4 ポイント増）
【「入院・通院」 7.0% + 「入院」 0.1% + 「通院」 63.6%】

(2) 処方薬についての情報取得

- ・入手経路
「医師・薬剤師」 56.8%
「ウェブサイト」 40.5%
「SNS」 6.4%
「特に入手していない」 25.7%
- ・ウェブサイトの内訳
「製薬会社」 54.9%
「業界団体」 10.6%
「民間」 42.6%

(3) かかりつけ薬局とくすりの相談窓口

- ・かかりつけ薬局「ある」 37.2%（1.3 ポイント増）
- ・くすり相談窓口の認知率 16.4%（2.6 ポイント減）

- ・利用率（認知者ベース） 22.3%（9.1 ポイント増）
 - ・対応満足度（利用者ベース） 100.0%（8.8 ポイント増）
 [「とても満足」 51.9% + 「まあ満足」 48.1%]
 - ・問い合わせ内容上位：「効能・効果」、「成分・特徴」、「副作用」
- (4) 処方薬の使用実態
- ・肯定層 92.3%（3.7 ポイント減）
 [「指示どおり飲んでいる」 59.5% + 「まあ指示どおり飲んでいる」 32.8%]
- (5) 副作用の経験・認知
- ・副作用経験率 29.5%（0.7 ポイント増）
 - ・副作用関心層 48.1%（3.4 ポイント減）

第2章 製薬産業について（イメージ、活動への認知、期待）

- (1) 製薬産業のイメージ
- ・製薬産業への信頼度 83.9%（4.1 ポイント減）
 - ・国民生活に欠かせない産業 88.9%（新設）
- イメージ上位
- ・「社会的に必要性が高い」 90.5%（1.5 ポイント減）
 - ・「技術力が高い」 89.8%（2.2 ポイント減）
 - ・「研究開発に熱心」 86.8%（1.3 ポイント増）
- イメージ下位
- ・「自然環境を守ることに熱心」 48.0%（0.7 ポイント減）
 - ・「就職したい（働きたい）産業」 49.2%（6.2 ポイント減）
- (2) 製薬産業や製薬会社の認知意向
- ・メーカー名の認知意向「知りたい」 57.9%（2.2 ポイント増）
- 理由上位
- ・「知っている」と安心 75.7%（2.0 ポイント減）
 - ・「副作用が起きた時のため」 40.1%（2.0 ポイント増）
- 製薬会社からの情報入手意向
- ・「入手したい」 71.3%（0.5 ポイント減）
- 製薬会社から入手したい情報上位
- ・「処方された薬の情報」 76.1%（1.9 ポイント増）
 - ・「薬の基本知識」 48.1%（1.6 ポイント増）
- 日本製薬工業協会（製薬協）の認知
- ・認知率 18.7%（0.2 ポイント減）
 [「知っている」 4.0% + 「見聞きしたことはある」 14.7%]
- (3) 新薬開発、治験についての認知、考え方
- 新薬開発についての意見
- 意見上位
- ・「資源が少ない日本にとって新薬開発は必要」 90.4%（1.4 ポイント減）

- ・「長い年月や費用をかけても新薬開発は必要」 90.2% (1.6 ポイント減)

意見下位

- ・「欧米が進んでいる。日本がやることはない」 23.8% (1.6 ポイント増)

治験の認知度

- ・「認知層」 89.1% (1.5 ポイント減)

【「ある程度知っている」 39.4% + 「言葉は知っている」 49.8%】

治験期間の認知

- ・「知らない」 49.4% (3.6 ポイント減)
- ・「3～7年」 36.8% (2.7 ポイント増)

治験総費用の認知

- ・「知らない」 56.6% (4.0 ポイント減)
- ・「数千億円以上」 25.7% (3.4 ポイント増)

治験への参加意向

- ・「参加してもよい」 27.4% (2.0 ポイント減)
- ・「参加したくない」 45.8% (3.9 ポイント増)

理由

- ・肯定層「社会の役に立つ」 61.5% (5.6 ポイント減)
- ・否定層「副作用のリスクが怖い」 57.9% (0.1 ポイント増)

(4) 医療データの利活用

「医療データがあなたの同意の下、他の医療機関や介護の場面で、医療関係者に開示・閲覧できるようになることを知っていますか？」

- ・医療データ制度の認知率：「知っている」 48.8% (5.8 ポイント減)

開示意向 ※認知者ベース[認知者を 100 とした割合]

- ・「メリットがあるので開示したい」 18.5% (4.7 ポイント減) [37.9%]
- ・「医療データ開示は躊躇する」 10.7% (1.1 ポイント増) [21.9%]
- ・「どちらとも言えない」 19.7% (2.1 ポイント減) [40.4%]

「製薬企業が新薬開発や、薬の安全性などを確認するために、あなたの医療データをプライバシーに配慮して活用されることをどう思いますか？」

- ・「活用して欲しい」 68.1% (1.6 ポイント減)
- ・「活用してもらいたくない」 8.2% (1.6 ポイント減)
- ・「よくわからない」 23.7% (3.1 ポイント増)

第3章 くすり・医療の環境について（制度や社会的課題への理解、考え方）

(1) 健康と薬・医療にかかわる用語の認知

7つの用語に関して「認知率」、「問題意識（言葉の意味を見てどう思ったか）」を調査

※認知率 = 「知っている」 + 「見聞きしたことはある」

問題意識 = 「身近な問題として意識」 + 「知らなかったが重要な問題」

- | | | |
|----------------|---------|-------------------|
| ・「健康寿命」 | ・・・ 認知率 | 73.9% (3.2 ポイント増) |
| | 問題意識 | 70.0% (0.2 ポイント増) |
| ・「セルフメディケーション」 | ・・・ 認知率 | 58.9% (新設) |

	問題意識	64.2% (新設)
・「AMR (薬剤耐性)」	・・・認知率	27.3% (1.7 ポイント増)
	問題意識	57.5% (3.6 ポイント減)
・「ポリファーマシー (多剤併用)」	・・・認知率	23.9% (2.7 ポイント増)
	問題意識	55.4% (1.9 ポイント減)
・「患者参画」	・・・認知率	18.8% (3.5 ポイント増)
	問題意識	48.6% (0.3 ポイント減)
・「ドラッグ・ラグ/ドラッグ・ロス」	・・・認知率	23.1% (5.5 ポイント増)
	問題意識	56.2% (1.3 ポイント減)
・「創薬エコシステム」	・・・認知率	13.1% (2.6 ポイント増)
	問題意識	49.1% (0.1 ポイント増)

(2) 薬価への理解と考え方

価格への意識

- ・「高いと感じることがある」 44.7% (5.3 ポイント増)
- ・「妥当な値段」 29.3% (3.4 ポイント減)
- ・「意識したことはない」 16.7% (4.4 ポイント減)

処方薬の価格 (薬価) 決定方法

- ・「知らない」 44.2% (12.8 ポイント減)
- ・「国が決める公定価格」 33.7% (4.4 ポイント増)

薬価改定という言葉の認知 (新設)

- ・「よく知っている」 4.8%
- ・「大体知っている」 10.8%
- ・「多少知っている」 23.3%
- ・「よく知らない」 61.2%

薬価についての考え方 (新設)

- ・「負担軽減のために継続的にさげるべき」 20.9%
- ・「新薬は価値に応じて維持すべき」 16.8%
- ・「新薬の日本での使用のためには上昇もやむを得ない」 10.9%
- ・「考えたことがない・わからない」 49.3%

(3) 医療費・医療保険についての考え方

医療費の国民負担

- ・「負担、質が変わらないよう望む (負担→、質→)」 40.8% (8.0 ポイント減)
- ・「負担が増えても、質の高い医療を望む (負担↑、質↑)」 15.6% (3.1 ポイント減)
- ・「質が下がっても、負担増は望まない (負担↓、質↓)」 7.7% (0.5 ポイント増)

医療保険制度

- ・「国民皆保険制度の継続を望む」 全体 ・・・ 52.0% (7.7 ポイント減)
- ✓ 年代別 20 代 ・・・ 27.4%
- 70 代以上 ・・・ 71.3%
- ・「財源や給付の見直しは必要」 ・・・ 27.5% (2.7 ポイント減)

- ・「どのような制度になろうと、国民の負担増は反対」・・・12.5% (0.2 ポイント減)
- ・「米国のように個人が選べる民間保険にして欲しい」・・・ 6.3% (1.6 ポイント増)

(4) コロナ禍における健康についての考え方

- ・コロナ禍による「健康・薬・医療への考え方」の変化率 34.0% (0.1 ポイント減)
- 変化率 = 「変わった」10.0% + 「やや変わった」24.0%

変化内容 (変化者ベース)

- ・「健康意識が高まった」・・・60.0% (5.0 ポイント減)
- ・「病気の予防意識が高まった」・・・56.5% (5.4 ポイント減)
- ・「医療従事者への感謝の気持ちが高まった」・・・30.7% (4.8 ポイント減)
- ・「日本製の薬やワクチンが必要だと感じた」・・・27.4% (0.9 ポイント減)
- ・「国の医療政策に関心を持つようになった」・・・18.8% (0.6 ポイント減)
- ・「日本製の薬やワクチンは不要だと感じた」・・・ 5.1% (2.0 ポイント増)

(5) 薬剤の供給不安についての考え方 (新設)

医療現場でのジェネリック医薬品等の供給不安の問題をどう感じているか。

- ・「影響があり、身近な問題」・・・40.0%
- ・「影響はなく、身近な問題と感じない」・・・19.7%
- ・「考えたことがない、わからない」・・・37.8%

問題の要因と解決についてどう考えるか。

- ・「業界の努力に加え、国の制度や環境も考慮する必要あり、早期解決は難しい」・・・60.3%
- ・「業界に要因あり、業界として解決すべき。早期に解決できる」・・・24.1%
- ・「考えたことがない、わからない」・・・15.6%

<お詫びと訂正> 2025 年 2 月 28 日

調査結果の要約において、下記の通り誤りがございました。お詫びして訂正いたします。

第1章 くすりについて

(5) 副作用の経験・認知

- ・副作用関心層 誤) 48.1% (3.4 ポイント増)
正) 48.1% (3.4 ポイント減)

第2章 製薬産業について

(1) 製薬産業のイメージ

- ・国民生活に欠かせない産業 誤) 89% (新設)
正) 88.9% (新設)

<お詫びと訂正> 2025 年 3 月 5 日

調査結果の要約において、下記の通り誤りがございました。お詫びして訂正いたします。

第3章 くすり・医療の環境について

(3) 医療費・医療保険についての考え方

・「国民皆保険制度の継続を望む」全体

誤) 52.0% (6.3 ポイント減)

正) 52.0% (7.7 ポイント減)

以上